※百分率は小数第二位で四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。

高齢運転者の交通事故発生状況
令和7年中

1　高齢運転者事故の発生状況

令和７年中の高齢運転者（65歳以上の運転者）が第１当事者となった人身交通事故（一般原付以上）は、発生件数は減少していますが、死亡事故及び負傷者数は増加しました。

【高齢運転者事故発生状況】　（令和７年中）

区分		発生件数	死亡事故		負傷者数		
			件数	死者数	重傷	軽傷	計
本年		1,059	15	15	128	1,139	1,267
前年		1,062	12	12	120	1,145	1,265
増減	数	−3	3	3	8	−6	2
	率	−0.3	25.0	25.0	6.7	−0.5	0.2

【高齢運転者死亡事故発生状況】　（令和７年中）

No.	発生年月日等											第１当事者		第２当事者		
	年	月	日	時	曜	昼夜	天候	発生場所	路線	形状	事故類型	死亡	種別	高齢者	死亡	種別
1	7	2	1	9	土	昼	曇	仙台市太白区八木山	市道	カーブ	四輪車単独	◎	軽乗	−	−	−
2	7	3	2	15	日	昼	晴	仙台市青葉区藤松	県道	直線	四輪対四輪	◎	軽乗	−	−	軽乗
3	7	3	13	10	木	昼	晴	川崎町大字前川	県道	三叉路	四輪車単独	−	軽乗	−	−	−
4	7	4	30	13	水	昼	晴	仙台市泉区明通	市道	カーブ	四輪対四輪	◎	軽乗	−	−	普貨
5	7	5	9	9	金	昼	晴	仙台市若林区沖野	市道	四差路	出会い頭	−	軽貨	◎	◎	自転車
6	7	6	19	13	木	昼	晴	大崎市岩出山	市道	単路	四輪車単独	◎	軽貨	−	−	−
7	7	8	29	18	金	夜	晴	岩沼市下野郷	市道	単路	四輪対自転車	−	軽乗	−	◎	自転車
8	7	9	7	14	日	昼	雨	東松島市大曲	駐車場		四輪車単独	◎	軽乗	−	−	−
9	7	9	24	18	水	夜	曇	亘理町荒浜	県道	三叉路	人対四輪	−	普乗	◎	◎	歩行者
10	7	9	29	10	月	昼	曇	栗原市若柳	県道	四差路	人対四輪	−	軽貨	◎	◎	歩行者
11	7	9	30	15	火	昼	晴	色麻町四竈	町道	単路	四輪単独	◎	軽乗	−	−	−
12	7	10	11	7	土	昼	曇	東松島市浜市字城内31番地南西方約200メートル	市道	三叉路	四輪単独	◎	軽貨	−	−	−
13	7	10	18	16	土	昼	曇	気仙沼市浪板17番地	県道	四差路	人対四輪	−	軽乗	◎	◎	歩行者
14	7	11	4	17	火	夜	晴	石巻市鹿又字中埣111番地17西向かい	県道	三叉路	人対四輪	−	普乗	−	◎	歩行者
15	7	12	14	13	日	昼	曇	栗原市若柳有賀字田畑77番地１東向かい	市道	直線	四輪単独	◎	軽乗	−	−	−

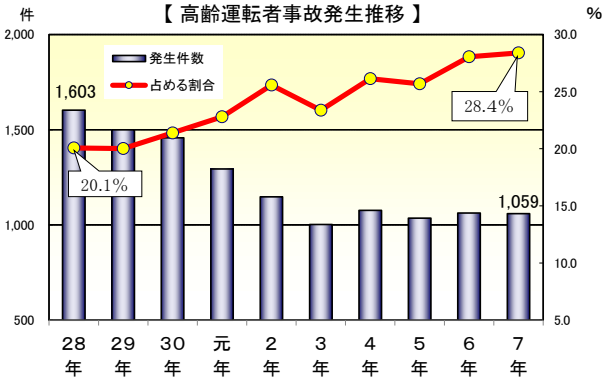
※は第３当の歩行者が死亡

2　高齢運転者事故の発生推移（基礎データ平成28年～令和７年中）

発生件数は、平成29年から減少傾向ですが、令和４年及び令和６年は増加しました。

全人身交通事故が10年間で53.3%減少（平成28年7,986件→令和７年3,730件。−4,256件）しているのに対し、高齢運転者事故は33.9%の減少（平成28年1,603件→令和７年1,059件。−544件）にとどまりました。

全人身交通事故に占める高齢運転者事故の割合は増減を繰り返しながら上昇傾向が続いており、令和７年は前年より増加しました。



区分	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
交通事故発生件数	7,986	7,491	6,815	5,675	4,487	4,286	4,117	4,033	3,785	3,730
高齢運転者事故件数	1,603	1,500	1,458	1,294	1,148	1,002	1,076	1,036	1,062	1,059
占める割合	20.1	20.0	21.4	22.8	25.6	23.4	26.1	25.7	28.1	28.4
死者数	17	17	16	12	14	13	13	14	12	15
負傷者数	2,014	1,811	1,752	1,565	1,402	1,148	1,271	1,247	1,265	1,267
死傷者数	2,031	1,828	1,768	1,577	1,416	1,161	1,284	1,261	1,277	1,282

※百分率は小数第二位で四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。

3　高齢運転者事故の発生特徴等（基礎データ令和７年中、第１当事者が一般原付以上の人身交通事故）

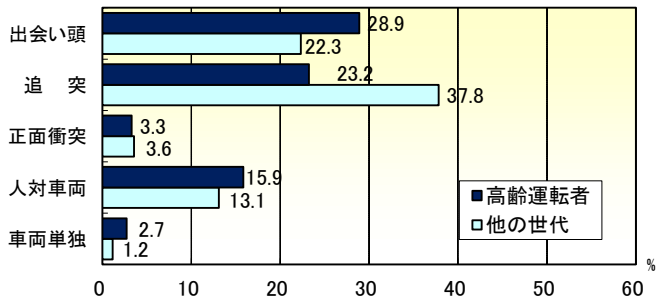
(1)　追突、出会い頭事故で5割以上を占める

事故類型別では、出会い頭事故の構成率が28.9%（1,059件中306件）と最も高くなりましたが、他の世代と比較して6.6ポイント高くなりました。

次いで追突事故の構成率が 23.2%（246件）と高くなりました。

また、人対車両の構成率が15.9%（168件）で、他の世代と比較して2.8ポイント高くなりました。

【 事故類型別発生状況(構成率) 】



(2)　交差点、駐車場等の構成率が他の世代より高い

道路形状別では、交差点の構成率が48.5%（1,059件中514件）で、他の世代と比較して8.7ポイント高くなりました。

また、店舗や病院の駐車場等「一般交通の用に供するその他の場所」の構成率が8.9%（94件）で、他の世代と比較して4.3ポイント高くなりました。

駐車場等での事故の行動別では、後退時が51.1%（94件中48件）で最も高くなりました。

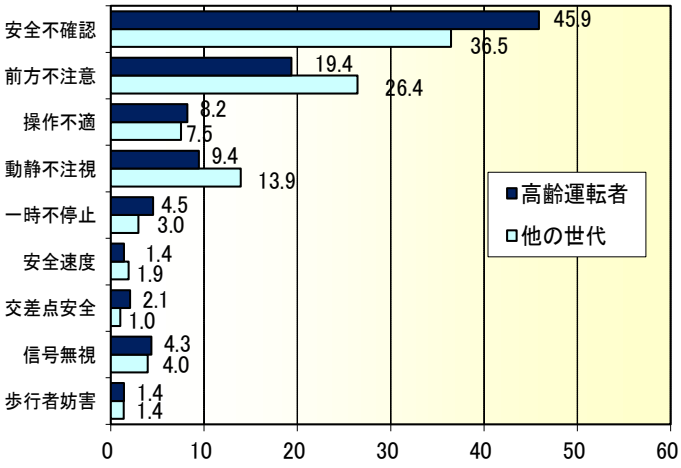
なお、駐車場等でのアクセルとブレーキの踏み違い等の操作不適による事故は14件発生しました。

区　分	交差点	交差点付近	直線	カーブ	駐車場等	その他	計
高齢運転者	48.5	13.2	27.1	2.3	8.9	0.0	100.0
他の世代	39.8	17.6	34.9	3.1	4.6	0.0	100.0
差	8.7	-4.4	-7.8	-0.8	4.3	0.0	-

(3)　安全不確認による事故が多い

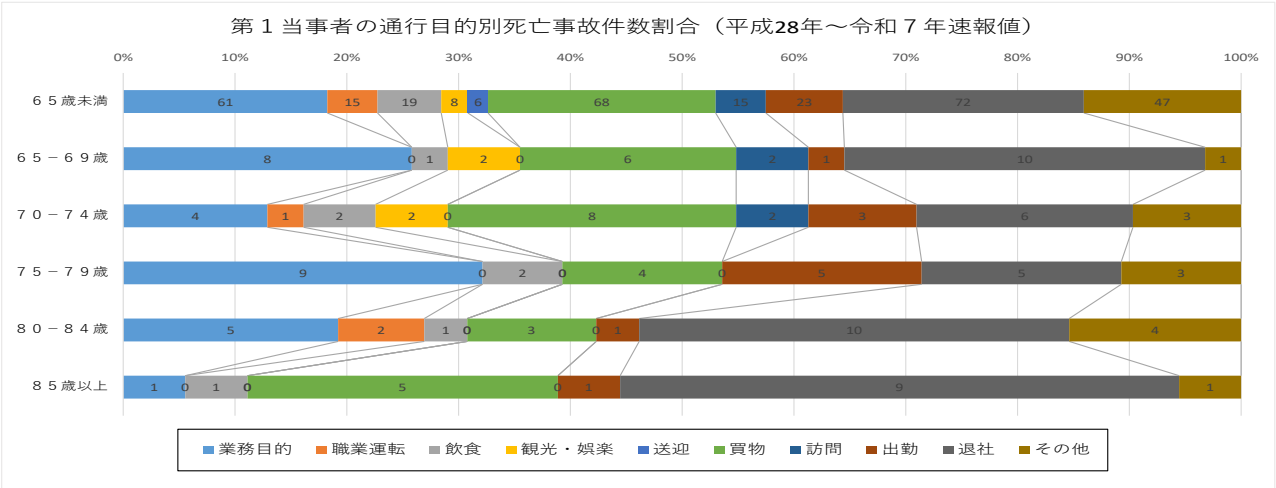
違反別では、安全不確認が最も多く、構成率が45.9%（1,059件中486件）で、他の世代と比較して9.4ポイント高くなりました。また、一時不停止や交差点安全進行義務についても他の世代と比較して構成率が高くなりました。

【 違反別発生状況(構成率) 】



(4)　通行目的別から見た交通死亡事故（基礎データ平成28年～令和７年中）

交通死亡事故を第１当事者の通行目的別・世代別に件数割合を見ると、高齢運転者が他の世代と比べて、業務目的や出勤・退社といった通行目的で運転している際に交通死亡事の発生割合が高くなりました。その他に買物や観光・娯楽の割合も高くなりました。



宮城県警察本部交通企画課